

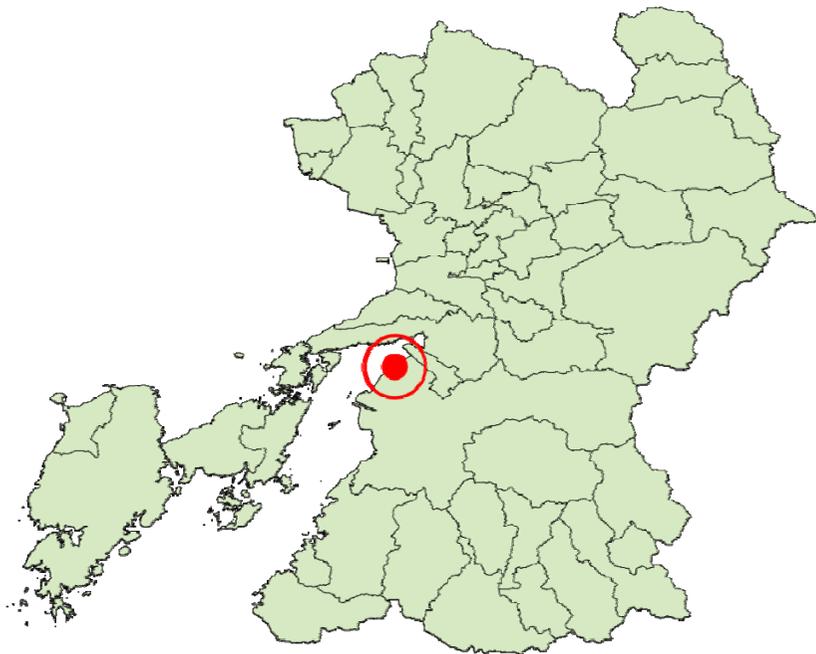
豊かな干潟の持続をめざして



鏡町アサリ活動組織

熊本県八代市 鏡町

- 鏡町は、熊本県のほぼ中央に位置する八代市の北部にあり、八代海の湾奥に位置する。
- 町は、近世以降の干拓によって作られた平野にあり、その地先には、町に流れる氷川や鏡川、大鞆川によって形成された広大な干潟が発達する。



恵みおおき 干潟の現況

- 地先の広大な干潟やその前面では、採貝漁やつぼ網漁、羽瀬漁が営まれている。また、最近では、マガキ養殖もスタートしており、「鏡オイスター」として多くのお客様に好評を得ている。
- 町の干潟漁業における生産額は、ここ十数年のピーク時の平成20年度でアサリが約3億円で、干潟は地域の漁業にとって極めて重要な生産現場となっている。
- また、干潟は地域住民が潮干狩りを楽しむ場にもなっており、特に干潟に生息するアサリは、町全体に恵みをもたらす貴重な資源となっている。



- しかし、平成23年の九州北部豪雨により壊滅的な被害を受け、24年度以降、アサリの水揚がなくなり、干潟を軸とした地域の漁家経営が悪化した。
- また、地域住民で賑わった潮干狩りも中止となり、アサリ資源の回復、これら生物生産力による干潟機能の再生が喫緊の課題となった。



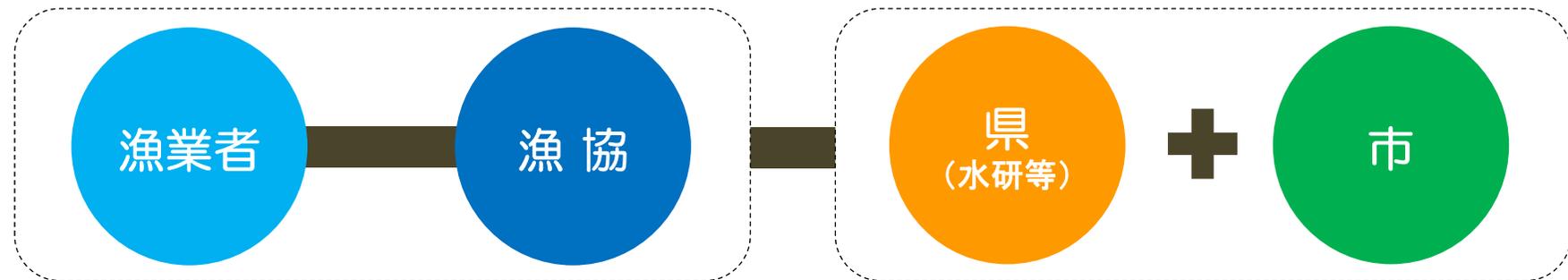
豊かな干潟の持続を目指して

- 喫緊の課題は、早期にアサリ資源を回復し、これら生物生産力による干潟機能の再生を図り、地域漁業の基幹となっている干潟漁業の立て直しと、市民が楽しみにしている潮干狩りの復活を図ることである。
- そこで、自分たちの暮らしのため、また後世に豊かな干潟を引き継ぐためにも・・・

▶▶▶▶ 平成25年度「鏡町アサリ活動組織」を結成

鏡町アサリ活動組織（構成員：81名）

サポート組織（技術・運営支援）



アサリ資源の早期回復を目指して 活動方針

【当初の方針（平成25～27年度）】

- アサリ資源の早期回復のため、活動当初は以下の4つの取り組みを実施。
- しかし、活動の大きな成果はみられず、アサリ等の生物生産力の向上にはつながらなかった。

● 干潟の耕うん



● 母貝放流



● 食害生物除去



● 網袋 稚貝捕集



【反省・・・】

- 大きな成果が得られなかったのは **なぜか？**

当該地域の漁業者は全てが鏡町漁協に属す。
しかし、これら漁業者集団は、古くから**3つの地区**に分かれ、漁業活動を行ってきた。
そのため、資源再生のための取り組みも**各々が分かれて活動**し、局所的となった。
加えて、地区間の情報交換もほとんど行われておらず、まとまりのある取り組みができなかった。



【新たな方針】

- 活動当初の取り組みの反省から、平成28年度に3地区共同の実施体制づくりの協議を進めた。
- また、網袋による稚貝捕集の成果から、自然に干潟に着底した稚貝を一定の面積で保護できる被覆網対策を試験検証し、その結果、一定の成果を得ることができた。



目合い検討

0 3 mm

0 9 mm

1 2 mm

2 0 mm

+浮子付

- そこで、平成29年度から以下の方針でアサリ資源の回復を図ることとした。

活動方針（平成29年度～現在）

- ① 全ての活動を3地区共同で実施する
- ② 試験で稚貝の着底が多かった地区の4 haの範囲で被覆網対策を本格実施する
- ③ 被覆網設置後の維持・管理を徹底する
- ④ 食害生物（ツメタガイ・ナルトビエイ・カモ）の除去を定期的に実施する



活動実績 被覆網の設置

- 被覆網の設置は、6～11月の期間中に実施。
- 場所は、稚貝の多い所を選定し設置。また、稚貝が特に多い港区地区①には広い区画（4 ha）で本格的に網を設置。

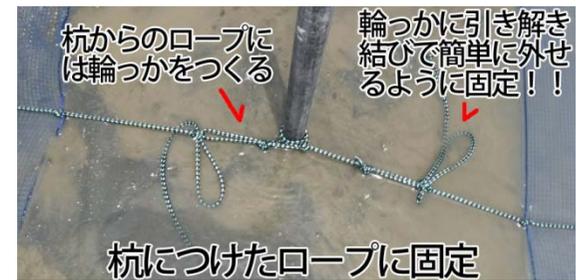


- 被覆網の設置方法は、以下の通り。
- 網規格：幅 2 m, 3.6m × 長さ 50m 目合 9mm ハウス用防風ネット
⇒目合 3 mmは稚貝の捕集力が高かったが、目詰まりしやくメンテが大変

第1工程：網の仮止めと杭打ち



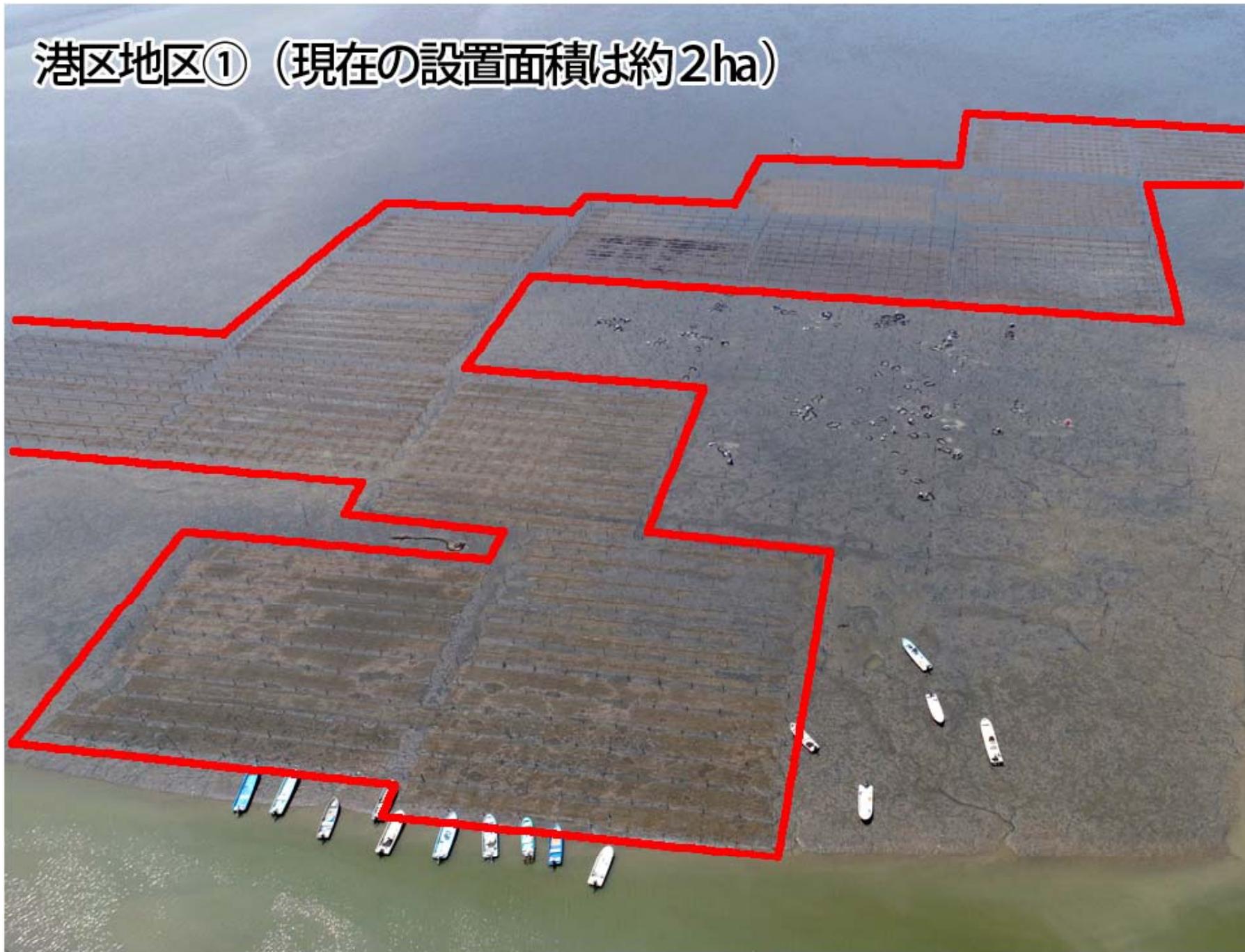
第2工程：網の固定



第3工程：浮子の取り付け



港区地区① (現在の設置面積は約2ha)



活動実績 被覆網の維持・管理

- 被覆網は、一定期間設置していると・・

カキや藻類などの生物の付着
微細藻類や動物等による目詰まり
砂や藻類の堆積
破損・破れ



などの問題が不定期に起きるので、
その維持・管理がとても大切。 <= 放置するとアサリが死ぬ



- そこで、被覆網の状態を構成員が出漁中など日常的に監視し、異常を早期に発見し対策を講ずる等の管理を行う。
- 維持・管理としては、これまで以下の取り組みを実施。



砂の堆積を防ぐ、網起こし
目詰まりを解消するための網洗い
漂着・堆積した藻類の除去
網の引き上げ・再設置
網の掃除（カキ潰し等）

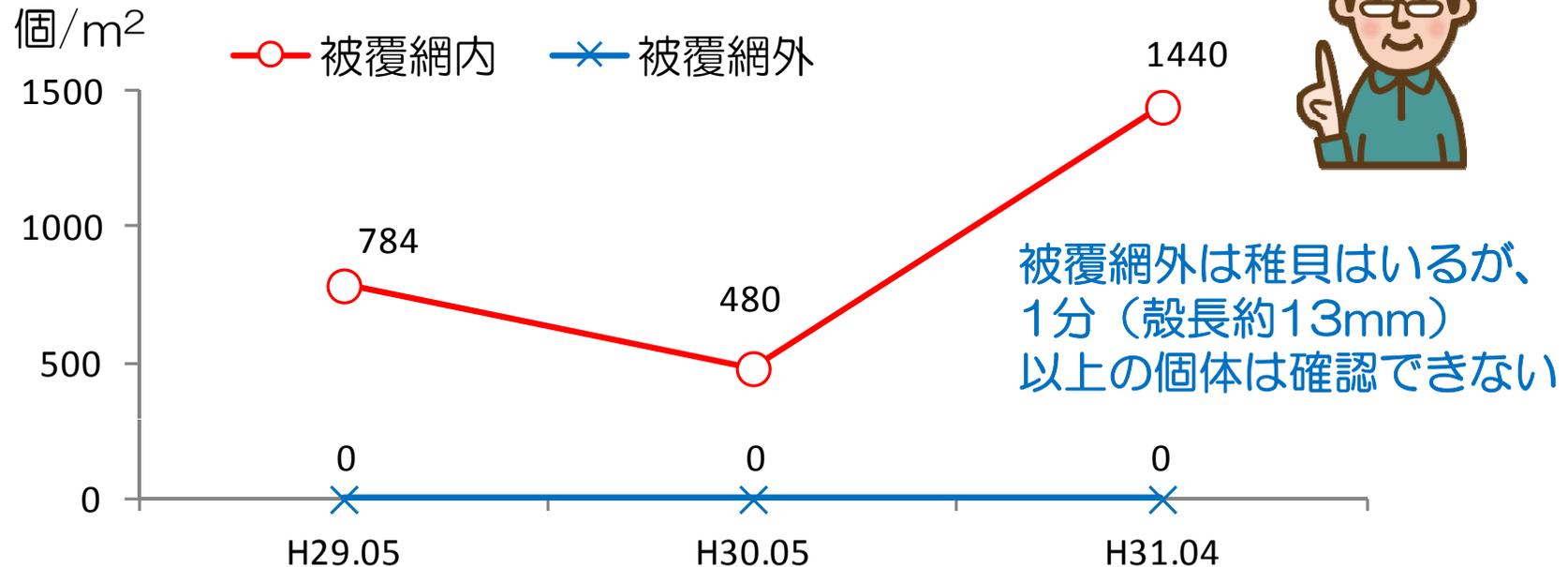


活動の成果① アサリ資源の回復

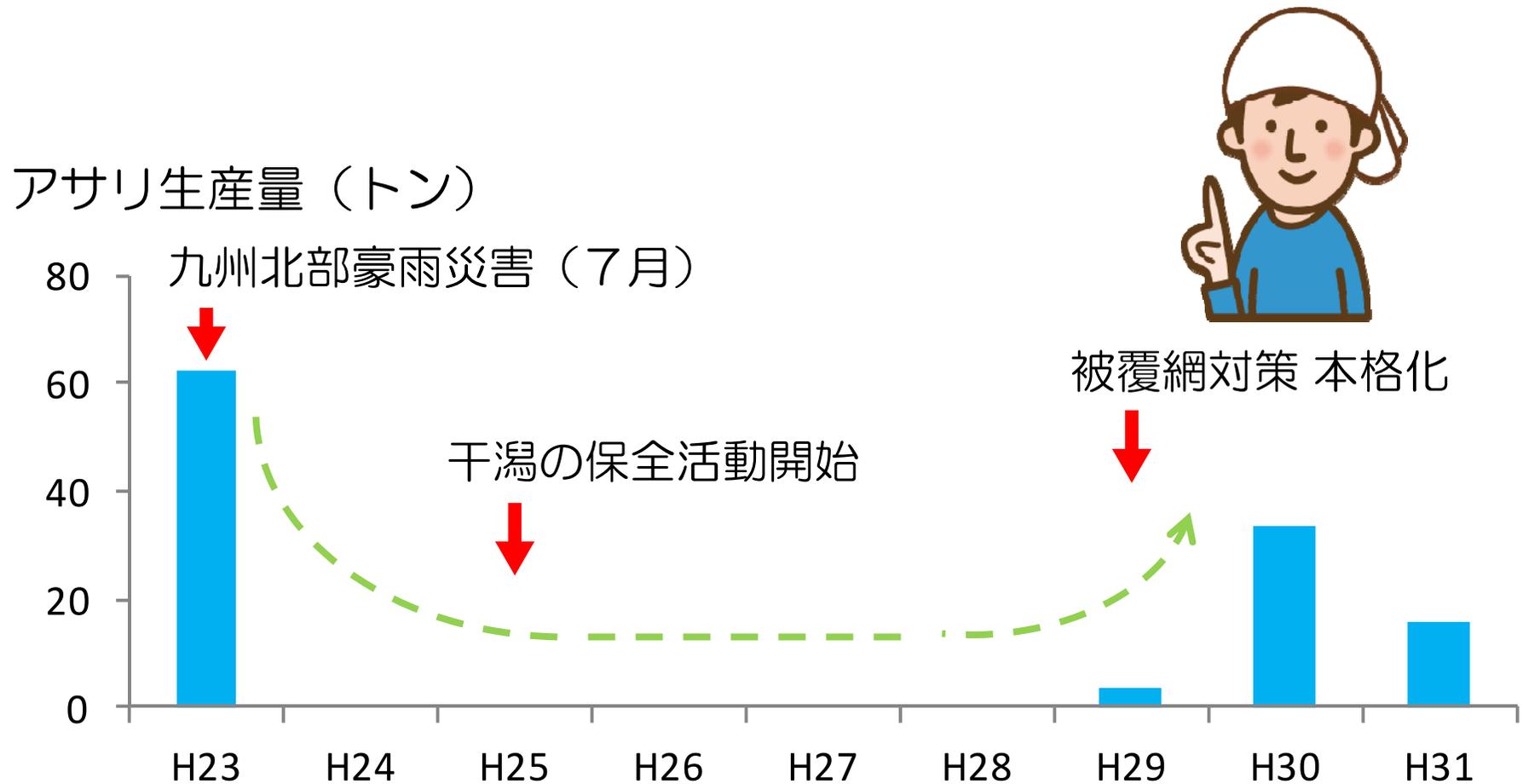
- 被覆網対策を本格実施した港区地区①のエリアには網の外側、内側ともにアサリ稚貝は着底している。
- しかし、下図に示すように、育ったアサリ（殻長13mm以上）は網の内側にしかいない。

⇒ 被覆網による保護・育成効果とその重要性が明らかに！

【被覆網内・外の殻長13mm以上のアサリ平均密度】



- また、被覆網対策を本格化した年から、アサリが水揚げされるようになり、翌年以降は15トン以上の生産量まで回復することができ、活動の手応えを構成員みんなが感じている。



活動の成果② 潮干狩りの復活！

- 被覆網対策の効果から、平成30年に一部ではあるが、潮干狩りの一般開放を復活！
- また、町内の保育園児とその保護者を招待し、潮干狩り体験会を実施。
- 体験会では、海の大切さや干潟の生き物やそれによる浄化作用なども体験を通じて教えている。
- 地域住民だけでなく、新聞記者やTVがくるなど、地域の賑わいや干潟やその保全の普及啓発につながっていると考える。



さらなるアサリ資源・干潟機能の再生に向けて

- 各地区バラバラの活動をやめ、共同作業することで、被覆網対策を軸に広域で回復活動を展開することができた。
- 被覆網下ではアサリが数多く育成し、資源の回復がみられ、数年ぶりに水揚をすることができた。
- こうした成功から、地区でバラバラだった漁業者に協業の意識が芽生えており、保全活動だけでなく、地域漁業の活性化にも今後つながるのではと期待している。
- また、復活した潮干狩りによって、地域全体が干潟の楽しさ・重要性を再認識したと考える。



- アサリ資源の回復は、まだ始まったばかり。以下の課題について今後検討を深め、更なる資源の回復、また干潟機能の再生・持続につなげていければと考える。
 - ① 稚貝の着底量や場所が安定しない
 - ② 被覆網の維持・管理の省力化
 - ③ 囲い網方式（被覆網改良）の検討
 - ④ 競合するアナジャコの侵入・増加
 - ⑤ カモ類の食害



ご清聴ありがとうございました

